

1. 単元名 発表原稿とスライドについて**2. 本時の概要**

本時は、探究活動の集大成となる校内発表会に向けて、「発表原稿」の作成に重点を置く回である。発表会はポスターセッション形式で実施され、持ち時間は3分間、スライドはA3用紙6～8枚分という制約がある。生徒はこれまでの探究内容を、研究背景、目的・リサーチクエスチョン、本論、結論、今後の展望、引用文献という論理的な枠組みに沿って整理し、原稿として言語化する作業を行う。

設定の背景として、中学1年生の段階では、収集した膨大な情報を「他者に伝えるための形」に再構成することが大きな課題となる。特に、自分だけが理解している専門用語を解説したり、リサーチクエスチョンに対する答えへの道のりを論理的に示したりするスキルは、反復的な指導が必要である。また、本時にスライド作成に先んじて原稿を完成させることで、内容の整合性を保ち、視覚資料であるスライドが単なる「文字の羅列」になるのを防ぐねらいがある。情報を取捨選択し、3分という限られた時間内で最も伝えたいエッセンスを抽出するプロセスを通じて、論理的思考力と表現力の向上を図る。

3. 本時の目標

- **発表全体の流れを把握:** ポスターセッションの形式と3分間の構成を理解し、研究の背景や目的、結論といった各項目が果たすべき役割と、発表全体の論理的な流れを把握することができる。
- **聴衆者を意識した発表原稿の作成:** 自らのリサーチクエスチョンに対する調査結果を、専門用語の定義や図式化のイメージを交えながら、初めて聞く人にも分かりやすい論理的な文章で原稿にまとめることができる。
- **自らの探究プロセスを客観的に振り返る:** 次時以降のスライド作成を見据えて、ICT端末を活用しながら主体的に原稿作成に取り組み、自らの探究プロセスを客観的に振り返って今後の展望を記述することができる。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:
 - 授業スライド 第16回
- 使用教材(副教材):
 - 岡本尚也(2024)『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッド ZERO』新興出版社啓林館
 - 鳥取県中部地域公共交通協議会(2018). 鳥取県中部地域公共交通計画.
<https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1116048/240531%20chubukeikaku>

5. 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
10分	①LIFEログの記録 ・スクールタクトを開き、「10月」の課題を選択する。 ・自身の最近の学習や生活について、4～5行を目安に文章で記述する。 ・書く内容が多い場合は、ページの複製機能を利用して記述を増やす。	・本文の文字サイズは自動調整されるため、生徒が自分で変更しないよう指示する。 ・記述が苦手な生徒には、最近の探究活動の進捗を振り返るよう個別に声掛けを行う。
5分	②発表形式と構成の確認 ・校内発表会が3分間のポスターセッション形式であることを確認する。 ・スライド(A3用紙6～8枚)の構成案と、原稿の項目(全6項目)との対応を把握する。 ・文字を詰め込まず、要点をまとめるデザインの要領を学ぶ。	・「研究背景」における「つかみ」の重要性や、初めて聞く人への配慮について強調する。 ・原稿作成がスライド作成の土台になることを伝え、内容の精査を促す。
25分	③発表原稿の作成ワーク(前半) ・Classroomで配布された原稿シートに、発表内容を記述する。 ・リサーチクエストに対する調査の道のりや、導き出された結論を論理的にまとめる。 ・専門用語の解説や、引用・参考文献の情報を正確に入力する。	・各生徒のシートを巡回・閲覧し、論理構成に矛盾がないか、専門用語の定義がなされているかを確認・助言する。 ・3分間で話しきれる分量(約900～1000文字程度)を意識させるよう指導する。 ・途中の休み時間(10分)を適切に挟み、集中力の維持を図る。
【2時限目】		
49分	発表原稿の作成ワーク(後半)	
1分	次回の予告と連絡 ・次回の授業までに発表原稿を必ず完成させておくよう、宿題として確認する。 ・次時は完成した原稿をもとに、スライド作成に入る予定であることを把握する。	・未完成の生徒に対し、期日までに仕上げるための具体的なスケジュールを意識させる。 ・Classroomへの提出状況を確認し、進捗が遅れている生徒を把握しておく。